報告

第20回天文教育研究会・天文教育普及研究会年会の報告

実行委員長　篠原秀雄（埼玉県立蕨高等学校）

8月6日（日）から8日（火）の2泊3日で、群馬県伊香保温泉の研修保養施設・観山荘（渋川市伊香保町）を会場に、第20回天文教育研究会（天文教育普及研究会年会）が開催されました。人間に例えるなら成人式といえる記念すべき研究会です。そこで、今年の研究会のメインテーマとして「天文教育普及活動の20年、そしてこれからの20年」を掲げ、これまでの20年の活動を振り返るとともに、これからの20年を展望しようという趣旨でプログラムを組みました。

参加者は65名で、天文学の第一線の研究者、学校関係者、社会教育施設の職員、そして学生という様々な立場の方々が集まって、3日間にわたって講演、発表、そして活発な議論を続けました（図1）。夜も研修室を会場にお酒を飲みながらのナイトセッションが開かれ、議論とともに交流を深めることができました。

図1　会場の様子

今回の研究会の中心となるテーマセッションは、2日目および3日目に時間をとって行われました。

まず、基調講演として東京大学名誉教授の祖父江義明氏に「天文教育における学会と教育界の連携について」と題してお話をしていただきました（図2）。祖父江氏には、日本天文学会の現理事長という立場から、天文学会の組織構成、学会における天文教育との関わりについて説明していただき、さらに天文教育普及研究会が今後どのように活動していくべきかについての提言をいただきました。示唆に富んだその内容に、会場も大いに盛り上がりました。

図2　基調講演（祖父江義明氏）

基調講演の後は、学校教育セッションと社会教育セッションの2つに大きく分かれて講演および討論を行いました。

最終日の総合討論においても、活発な議論が交わされました。特に若手の参加者から、この研究会に対する忌憚のない意見や鋭い質問が出されました。真剣勝負の討論がこの会を支えていくことになると実感させられました。最後に、天文教育普及研究会・新会長の松村雅文氏（香川大学）が今後の研究会の方向性についてまとめて、終了となりました（図3）。

図 3　総合討論のまとめ（松村雅文氏）

今回の研究会では、テーマセッション以外にも様々な企画がありました。

研究会のスタートは、嶺重慎氏（京都大学基礎物理学研究所）による特別講演「ブラックホールはどう見える？」でした。ブラックホールに関する最新の研究成果を、わかりやすくお話ししていただきました（図 4)。

図 4　特別講演（嶺重慎氏）

テーマセッション以外の一般発表は全部で 34 件あり、いずれも天文教育・普及活動に関する重要な報告あるいは提言でした。

3 日目の午前には、科学技術館（東京都千代田区）で行われているサイエンスライブショー「ユニバース」の上映(『出張ユニバース』)があり、会場にいながら宇宙旅行気分を味わえました（図 5)。

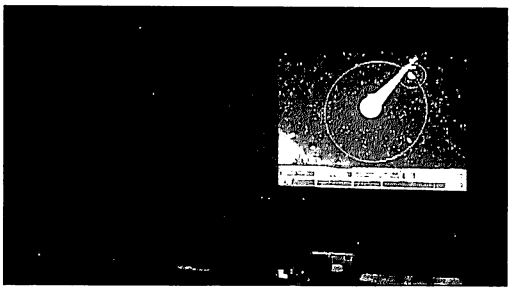

図 5　ユニバース上映

また、会場では特別企画として、次の展示会がありました。

・天文の絵本・児童書展
・「天文教育」(旧「天文教育普及研究会回報」)と集録のバックナンバーの展示（図 6)
・ 天文雑誌のバックナンバーの展示

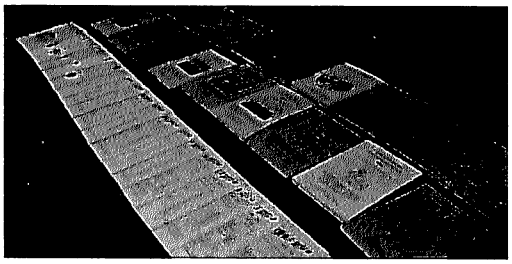

図 6　「天文教育」「集録」の展示

最終日の午後は、オプショナルツアーで県立ぐんま天文台を見学させていただきました。

今回の研究会についての詳細は、「天文教育」11 月号とともに送付予定の研究会集録をご覧ください。

なお、来年度の天文教育研究会は、東北支部において開催される予定です。